

MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第7戦 第57回MFJグランプリスーパーバイクレース in 鈴鹿 参戦報告書

超激戦区の全日本ロードレースJ-GP3クラス
長谷川蒼馬が9位でフィニッシュ。特別参戦優秀賞を獲得!!

10月25日(土) 公式予選 / 08:50~09:20 天候・路面: Cloudy・Wet

#56 長谷川蒼馬 2'28.649 / 16番手

全日本ロードレースシリーズ第7戦MFJグランプリに、HRS Motoアドバンスコース生の#56長谷川蒼馬が参戦した。長谷川は鈴鹿サーキットの規準タイムをクリアしており、今回は特別枠での参戦となる。長谷川と同期の富樫虎太郎、戸高綸太郎は、すでに今年度全日本ロードレースシリーズにフル参戦しており、今回は他チームから参戦している。

夜間に降った雨で、予選はウェットコンディションの中で行われた。雨は未明には止んでいて、コースにはところどころに乾いたところが見られるという難しいコンディション。長谷川はスリックタイヤをチョイスしてコースイン。だが路面は思いのほか乾きが遅く、なかなかペースが上がらない。路面状況が変化し、ライバル勢は徐々にタイムを削っていくが、長谷川のペースはその後とも上がらず、最終ラップとなる11周目にベストタイム(2'28.649)を記録。決勝は6列目16番手からのスタートとなった。

「予選開始直後は先頭の集団のなかで走りましたが、周りのライダーは皆レインタイヤを履いていてペースも良く、そんな中スリックで走るの正直怖かったです。セッションの途中に一度ピットに戻って仕切り直しましたが、コース前半のウェット路面の感覚がなかなか抜けず、タイムを縮められませんでした」(長谷川蒼馬)



 TAICHI

 Arai

 EARPEACE

 EIKO
Glory of Karting

 EXGEL®
Motorsport

 NGK
SPARK PLUGS

 ENDLESS
Challenge to the Future

 HEDC
BATTERY

 MOUNTAIN
SUSPENSION

 Sabelt

 CCI

 SHIBA LIVING JAPAN
advanced technology products

 ThreeBond

 DUNLOP

 TODA
RACING

 TONY/KARI
23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

 TORAY
Toray Carbon Magic

 竜馬

 BRIDGESTONE

 PETRONAS
Syntium

 hit-air
SHOCK SUPPORT SYSTEM

 mooncraft

 rizoma

 WAKOS

MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第7戦 第57回MFJグランプリスーパーバイクレース in 鈴鹿 参戦報告書

10月26日(日) 決勝レース フルコース11周(減算) 天候・路面:Rain・Wet

#56 長谷川蒼馬 9位(特別参戦枠/最上位優秀賞)

予報通り、朝から雨模様の鈴鹿サーキット。決勝レースはWET宣言が出され、周回数は13周から11周へと減算された。午前10時05分、降りしきる雨の中を全車一斉にスタート。6列目16番グリッドからスタートした長谷川はウォータースクリーンで視界が遮られる中、スタートをうまく決め、1コーナーへの進入で数台をパス。1周目を12番手で通過し、さらにペースを上げて順調にポジションを上げていく。

長谷川は3周目には9番手、そして4周目には8番手にまでポジションをアップする。集団を抜けて一時は単独走行となるものの、一度かわした選手に再び先行されてしまい、9番手にドロップ。だが長谷川はその後も終始落ち着いた走り続け、レース中盤以降も安定したペースを刻んでポジションをキープする。前走車からはやや引き離されてしまったものの、最後まで後続とのアドバンテージをしっかりと保ち、予選順位を大幅に上回る9位でチェッカーを受けた。

今大会、5人出場した特別参戦枠のライダーの中で長谷川はトップでチェッカーを受け、特別参戦優秀賞を授与された。多くの観衆が見守る中、長谷川は表彰台に登壇し、トロフィーを受け取っている。








Glory of Karting


Motorsport


SPARK PLUGS


Challenge to the Future


BATTERY








advanced technology products










Toray Carbon Magic

















ヘビーレインコンディションで予選から大きく順位を上げてフィニッシュできたことで苦手が克服できたかもしれない

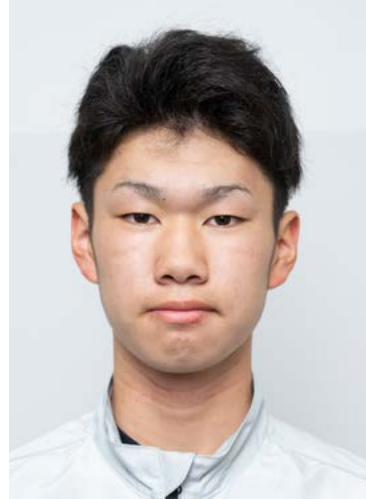
(右) 長谷川 蒼馬…J-GP3 特別参加枠1位
(左) 戸高 綸太郎…J-GP3 チャレンジクラス1位

MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第7戦 第57回MFJグランプリスーパーバイクレース in 鈴鹿 参戦報告書

全日本選手権J-GP3クラス: 決勝9位◎予選16位
長谷川 蒼馬 (はせがわ そうま) 15歳

『木曜日のスポーツ走行で久しぶりにJ-GP3のマシンに乗りましたが、フィーリングが良く、金曜の走行の1本目でも自己ベストに近いタイムも出せました。2本目の走行で自己ベストを狙いましたが、雨がパラついてきたためにベストの更新はできませんでした。ドライのままであればタイムはもっと短縮できたと思います。予選は苦手なコンディションで、まわりのライダーも皆レインタイヤを履いていたこともあり、少し消極的になってしまいペースを上げられませんでした。それでも、もう少し上の位置にまで行けそうな手ごたえを感じていたので、ここでしっかりタイムを出せなかったことは大きな反省点です。

決勝では1周目に数台抜くことができ、4周目には8番手にまで上がりましたが、後方から追い上げてきたライダーと競り合っしまい、その間に前のライダーに差をつけられてしまいました。7位も狙える位置でしたので9位という結果は悔しいですが、苦手意識があった雨のレースにもかかわらずカテゴリー最上位で特別賞を頂けたことは良かったとも思っています。今まで苦手だった雨のレースですが、今回は予報で雨と聞いても『チャンスだ!』と思えるようになりました。決勝前も思ったほど緊張することなく、リラックスしてレースに臨めました。今回の結果で、雨の走り方は自分の中でさらに理解できたと思います。サンデー最終戦のNGK杯まで残された時間はわずかですが、その間にスポーツ走行があるので、ドライであれば19秒台を狙います。そして自信を持ってNGK杯に臨みたいと思います』



岡田 忠之Principal

『今回のレースウィークはいい流れで進んだと思います。ただ予選では攻めきれずに16番手だったというのは反省しなければいけない点ですね。とはいえレースではしっかりと追いつけたので、その点に関してはとても良かったと思います。長谷川はこれまで(HRSアドバンスコース同期の)富樫と戸高に前に行かれてばかりでしたが、今回は全日本にレギュラー参戦している彼らよりも前にゴールしていて、この結果は大いに評価できますね。もともと長谷川は雨があまり得意ではありませんでしたが、今年のHRS Motoアドバンスコースは関連する様々なトレーニングメニューも取り入れており、そのおかげで、雨に対する彼の苦手意識の克服につながったんだろうと思います。次のレースはサンデーロードレース最終戦NGK杯です。レースまでに残された時間は多くありませんが、長谷川はもちろん、富樫、戸高もさらにステップアップできるよう、いろいろとバックアップしていくつもりです』

